

## II 編集後記 II

本冊には、日本史一本、東洋史二本、西洋史一本、考古学二本の、多様な分野の論文を取録しています。フィールドの異なる多分野の論文が一冊に集まる本誌の特色は、日本語という共通言語があつてはじめて意味を持つものです。

しかし急速に進むグローバル化は、こうした状況に変容を迫りつつあります。それは日本史として例外でなく、国際学会等で日本人研究者が日本史の研究報告を英語で行うということも珍しくなくなりました。「英語一強」の状況は今後ますます強まりそうです。

とはいえ、歴史学の根本材料たる史料が、対象地域の言語で記述されていることが一般的である以上、史学系の学問においては、基軸となる言語が分野ごとに異なるのが本来あるべき姿だと考えます。しかし、仮にそうなつてくると、今度は、多様な分野の論文が同居する本誌のような雑誌の持つ意味は、大きく減退せざるをえないということになるのではないのでしょうか。分野も記述言語もバラバラな研究論文が同居しても、誰も通読しませんし、一つの学会・一つの雑誌である意味は大きく減退するでしょう。

いづれにせよ、日本の大学・学会の雑誌だから日本語論文、というのが当たり前でない時代になつてきたことは間違いありません。本誌のあり方についても、そうした議論に応じて再考を迫られる時期が、そう遠くない時期に来るのかもしれない。(真辺将之)

### 執筆者紹介(掲載順)

児玉 憲治	早稲田大学大学院文学研究科 研究生
祁 今 馨	早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程
野中 敬	東京都立日比谷高等学校主任教諭 早稲田大学教育総合科学術院 非常勤講師
紀 愛子	日本学術振興会 特別研究員(PD)
福山 佑子	早稲田大学国際学術院講師
ミリアム・ピルッティ・ナーメル	ピサ高等師範学校研究員
伝田 郁夫	早稲田大学大学院文学研究科 博士後期課程

平成三十年九月十九日印刷  
平成三十年九月二十五日発行

### 史観

第百七十九冊  
定価 一千五百円

編集者 近 藤 二 郎

印刷所 株式会社 白峰社

発行所 早稲田大学史学会

東京都新宿区戸山一―二四―一  
電話東京(三二〇三)四一四―番  
振替〇〇一九〇―八―一四六二九